
「愛してる」って・・・なに？】

龍耀 珠夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「愛してる」って・・・なに?】

【Zマーク】

Z8580C

【作者名】

龍耀 珠夜

【あらすじ】

「愛してる」ってなに?その疑問を始めて抱いてからその答えを知るまで、、、長い時間を歩きました。そして・・・やっと出会えた。その答え。

「子供は、自分の両親から、愛される事を学びます。そして、愛すると云つ事を学んでいくんです」

高校時代の家庭科の先生がそんな事を言っていた。

・・・確かに・・・保育に関する授業だったか。

「じゃあ離婚している家は？親が居ない子は？」

その問い合わせる答えはこうだった。

「絶対に誰かが人を愛すると云つ事を教えてくれるわ。だからそれはあまり関係ないわ」

そりゃそうだ。

私がした質問にたいした意味はない。

両親が居たとしても、誰もがうらやむ家族だとしても

「愛してる」って事がわからない私が居るんだから。

『私ね飲み屋で会った人が今、パパより好きなの』

そんな事を母に告げられたのもちょいどその頃だ。

でも私は何も言えなかつた。

その瞬間に思つてしまつたから・・・・・・

『永遠の愛を誓つて、誰もがうらやむ家族でも
愛なんて存在しないんだ』 つて・・・

「愛してゐつてどういう意味？」

高校時代の私はそれ以来、その言葉の意味を探し続けた。

絶対別れないと思つたカップブルの別れ。

ありえないと思つたカップリングでの略奪愛。

不倫。

そして自分自身の経験。

どこにも「愛」なんてなかつた。

「愛してゐつてなに？」

「俺がお前を想つてる事だよ」

・・・わけわからぬ。

結局別れた。

価値観の違い。育ちの違い。

下に見られているみたいだつた。

それでいて、・、全てを私にゆだねてくれる。

「愛してるってなに?」

「その内わかるよ

・・・わかんねえよ

結局支えるだけの関係に疲れて別れた。

『愛してるってなに?』

答えが見つからないまま・・・6年が過ぎていた。

「俺は絶対お前と結婚する」

結婚・・・永遠の愛を誓つもの。

私はその人を好きになった。
まっすぐ向かってくる人。
かつこつけずに、ありのまま・・・。
それでいて、無理しない人。

私が「私」であり続けられる人だった。

「愛してるってなに？」

「一緒に見つけよう」

・・・一緒に・・・

その人は絶対に嘘付かなかつた。
約束も絶対守る人だつた。

ただそんな事の積み重ねだつたのかもしれない。

「好き」

が

「大好き」

に変わつていつた。。。

そのうち、その人が愛しくてたまらなくなつた。

その人の全てを、本当に心から信じきつてる自分に出会つた。

そして始めて言われた。

「愛してるよ」

耳の奥で何度もこだまする。

『愛してるよ』

・・・わかつた。・・・

『愛してる』って・・・

「好き」と「大好き」じゃ足りないくらい大きな気持ちなんだ。

自分の全て

相手の全て

お互いがお互いの全てを知り、そして受け入れ、そして愛す。許す。

その想いが、自然と口から出た時

『愛してる』

になるんだね。

簡単だった。

『愛してるってなに?』

・・・愛してるって

心から信頼できる相手に

心から大切な相手に

心からずっと側に居たいと願える相手に

伝える事ができる、最上級の言葉だよ。

『愛している』

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8580c/>

「愛してる」って・・・なに？】

2010年12月14日20時40分発行